

バストリオ新作『点滅、発光体、フリー』

TPAMショーケース参加作品

2013年2月7日（木）～11日（月・祝） 会場：nitehi works（横浜）

演劇だけでなく他ジャンルのアーティストと積極的にコラボレーションし続け、2012年に空気公団とのコラボレーションライブでパフォーマンスとして参加し、好評を得たバストリオが2013年TPAM（国際舞台芸術ミーティング in 横浜2013）ショーケースに参加し、新作を発表します。

つきましてはご取材、ご紹介いただけますと大変嬉しく思います。

公演情報

日時：2013年2月7日（木）～11日（月・祝）
2月7日（木） 20:00～
2月8日（金） 20:00～
2月9日（土） 14:30～/19:30～
2月10日（日） 14:30～/19:30～
2月11日（月・祝） 13:30～/17:30～

チケット情報《全席自由》

料金：予約／2,800円 当日／3,000円
TPAMパス割引／2,500円
20歳未満無料

取扱：バストリオ <http://busstrio.com/>

予約開始：2012年12月24日

会場：nitehi works 3F

〒231-0056 横浜市中区若葉町3-47-1

キャスト／スタッフ

作・演出：今野裕一郎

出演：秋山莉沙、木下毅人、志村知晴、砂川佳代子、名児耶ゆり、橋本和加子、平石はと子

音楽：杉本佳一（FourColor／FilFla／Vegpher） 宣伝美術：黒木麻衣 演出助手：森菜里

アナザーワーク：伊藤羊子、黒木麻衣、小林光春、齋藤俊太、坂藤加菜、迫尻弘、新穂恭久

主催：バストリオ

ストーリー

カラダが埋まっていくのを感じています。

夢のようです。そこにはエネルギーだけが溢れている。なにも知らないのに。

葬式の帰り道、駅の広場でピエロを見たのはリンダでした。

太陽はふたつありました。

手紙は机の中にありますが、きっとこの糸は、時間によって彼と繋がることになる。

夜が朝になる話をやります。で、朝は夜にもなる話もやります。それから、リンダは嘘つかない。

問い合わせ

バストリオ 制作代表 橋本和加子

<http://busstrio.com/>

tel：090-9984-6635 mail：info@busstrio.com

バストリオとは

今野裕一郎（演出家／映画監督）が主宰するユニット。2010年より活動を開始する。

コラージュの手法を用いて、シーケンスを繋ぎ合わせることで、複数の豊かな物語を自由に喚起させる作品を作り出している。ライブハウスやギャラリーなどでの上演や、音楽家との共同制作など独自の表現の可能性を拓いている。2012年には空気公団とのライブ『夜はそのままの先に流れる』においてパフォーマンスとして参加し好評を得るなど、多方面に活動を広めている。

今野裕一郎

演出家／映画監督／カメラマン／役者

横浜国立大学経済学部中退後、京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科に入学、卒業する。ドキュメンタリー作家の故・佐藤真、劇作家／演出家の宮沢章夫に師事し、宮沢章夫が主宰する遊園地再生事業団の近年の作品で映像と出演を担当する。ほかにもニューヨークで自身の写真展を開催するなど、様々な活動を行う。

主な作品

《舞台》

2010年『原始人みたい』@千駄木Brick-one

『ガール・プロブレム あなたの葬式でわたしが言うべきこと』@北堀江club vijon（大阪）

『BUSSTRIO LIVE EVENT ガール・プロブレム』@渋谷屋根裏

『まるいじかんとわたし』@Tranq Room（京都）

2011年『絶対わからない』@千駄木Brick-one

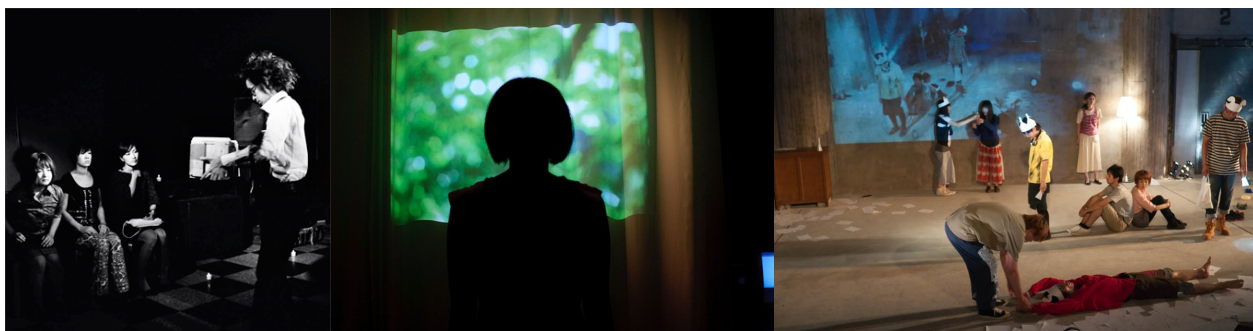
2012年『Rock and Roll／あなたにとって大切なのはココロ』@新宿眼科画廊

2013年『Very Story,Very Hungry』@BankART NYK / NYKホール

空気公団ライブ『夜はそのままの先に流れる』@日本橋公会堂(パフォーマンスとして参加)



(c)Toshiyuki Matsushita



『ガール・プロブレム あなたの葬式でわたしが言うべきこと』

『絶対わからない』

『Very Story,Very Hungry』

《映画》

2011年『生きている』

『信じたり、祈ったり』 第6回札幌国際短編映画祭ジャパン・オフ・シアター部門選出作品

《上映会》

『マイクロコスモスⅠ』@Tranq Room（京都）、@茅場町Gallery MAREBITO、@UPLINK FACTORY



『ハロー、スーパーノヴァ』（2013年）

『生きている』（「マイクロコスモスⅠ」上映会フライヤー）

バストリオに寄せられたコメント

映画『生きている』



一見ファンタジーって思われる世界を有用することで、自分のリアリズムを届けようとする姿勢がきびしくもあるんだけど、やさしいなと思う。きびしいってことはやさしいんだなってことがホントに痛感させられたかな。僕自身もそういう表現形態をとるし。

モノを創ってる人間として、今野さんたちのような人がいることはすごくホッとしますね。今後も楽しみにしています。

(デジタルマガジン『K.O.M』第2号より抜粋)

中村一義 (音楽家)

映画『信じたり、祈ったり』



大人たちと子どもたち。みな目の前には、きつと「今」しかない。

今しかないからこそ、なにかに執着しながらも、忘れてゆく。

執着と忘却の間、大人と子供の間を、皆がふわふわと行ったり来たりしていて、他の人には見えないその“間”を見ている監督は、おでこに第三の目を持っているのだろーと思いました。

横浜聡子 (映画監督)

横浜聡子のこっくんぱっちよや瀬田なつきのとどまるかなくなるかと並ぶ、子供映画の傑作だと思います。

佐々木敦 (批評家)

舞台『絶対わからない』



その日はとても暑い日で、初めて行く街はなんだかワクワクさせてくれた。路地を曲がり普通の民家の様な場所。よくわからないけど田舎のおばあちゃんの家に来た気持ちになった。

席に着くと役者ととても近く、というかほぼ同じ空間にいるので緊張した。2011年はいろんな事があった。本当にいろんな事があったのでそれを無視する事はとてもできない。それを呼吸してどう吐き出すか。僕は観ている間とても心地良かった。終わり。

やついいちろう (エレキコミック)

舞台『Rock and Roll/あなたにとって大切なのはココロ』



この人たちがやっていること、やれていること、やろうとしていることを、まず第一に自分は理屈抜きに非常に好ましく思っているのだと再確認しました。とにかく僕は、バストリオの役者さんたちの佇まいと台詞の言い方が、大変好きなのだ。幾つも幾つも、理屈抜きにぐっと来るシーンがあった。彼らは明らかに、戦略抜きにナチュラルに、他とは違ったことをやろうとしていて、やれていると思う。

ミニマルでポストモダンなアメリカ文学の最良の部分の味わいにも似たリズム。

佐々木敦 (批評家)

舞台『Very Story, Very Hungry』



バストリオの演劇を生で見たのは初めてだった。

数日余韻を楽しめたのは私だけだろうか。瞬間にパッと透明な街が見え、バストリオの見えない深い部分を感じられた。ステージに断片がいくつもあり、それをつなぎ合わせる自由さを残している。ただそこに居て見る、感じるという自然で純粋な気持ちが大切なんだと再認識している。

山崎ゆかり (空気公団)